

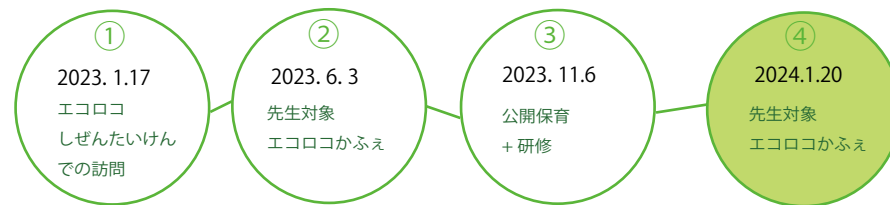
推進委員 松山 孝博(千草こどもの園 園長)
山中 詩子(三田市有馬富士自然学習センター
コミュニケーター)

園の子どもの表現と自然体験を結ぶ取組み

子どもを真ん中にした自然体験を促進する「ひょうごエコロコプロジェクト」の様々な取組みの中で、「エコロコかふえ」は地域(Local)の自然の特色を活かした自然体験の開発と地域の園の交流の活性化を育む試みとしてR5年度始動しました。1月20日(土)に、推進委員の2名で淡路島版の「エコロコかふえ」を実施しました。今回の「エコロコかふえ」は、開催園での日常的な取組みに計画的に導入されています。「自然物を取り入れた保育から子どもの表現に着目する」という視点は、園での自然体験の取組みのひとつのヒントとなります。園での「エコロコかふえ」の活用のひとつの事例モデルとしてご紹介できたらと思います。



エコロコかふえ @淡路島の経緯



【千草こどもの園より】

千草こどもの園では、「自然となかよく 自然とたのしく」を保育計画の中心にすえ、園として「エコロコプロジェクト」推進している。令和5年度は、「自然の素材をもちいた子どもの表現」を年間のテーマとし自然体験活動を行った。活動は、主に5歳児を中心に行い、「環境学習ミーティング」を活用しその活動状況を園全体で共有した。その中で、エコロコの取り組みを4つの段階において活用し、5歳児クラスでの活動から各年齢の活動に派生させ、園全体で「自然体験」の共有と、日常生活の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の言語化を図ることで具体的な保育者間での共通認識を高めることができた。また、研修もかねて「エコロコかふえ」として、淡路島内の他園にもその試みの一部を公開し、他園の先生と一緒に対話する場をもつことで、地域の特色を活かした保育について自然環境から考えることができた。今後も淡路島では、小規模なエコロコかふえを開催継続したい。

エコロコかふえ @淡路島の導入事例

※「環境学習ミーティング」...千草こどもの園の保育者が日常的に集い、各クラスの取組みを報告し対話共有する場

1 エコロコしぜんたいけん

4歳児クラス(当時)



冬のお山でムシ探し・素材集め
木の枝をつかった活動

2 エコロコかふえ



田んぼの畦道に素材集め
「おはな ぷかぷか」実践
草花ごおりとにじみ絵活動
参加者同士で対話

3 公開保育 + 研修

5歳児クラス



秋のお山で素材集め
葉っぱと紙粘土をつかった活動

4 エコロコかふえ



冬のお山で素材集め
葉っぱと紙粘土をつかった実践
保育事例紹介
参加者同士で対話

園独自の
取組み
「環境学習
ミーティング」

★③と④についての詳細を次のページでご紹介します。

こどもと
しぜんと
ひょうげん

日時：2023.11.6（月）
10時～11時45分

場所：幼保連携型認定こども園
千草こどもの園

5歳児クラス 20名

秋の葉っぱ遊び

あそびナビゲート：山中詩子（やまなか うたこ）

三田市有馬富士自然学習センター コミュニケーター

落ち葉の季節。子どもたちが自分で拾い集めた
葉っぱをつかって遊びを広げていきました。

- 【内容】
- ・「はっぱバッグ」との出会い
 - ・お気に入りの葉っぱ探し（お外）
 - ・光に透かしてみる葉っぱ（お外）
 - ・並べてみよう（室内で）
 - ・今日のお気に入りの一枚をえらぼう
 - ・紙粘土との出会い（きる・さわる・感じる）
 - ・紙粘土と葉っぱ …葉っぱのかたどり
 - ・紙粘土と葉っぱ …葉っぱでかざりつけ
 - ・紙粘土と葉っぱ …葉っぱのディスプレイ
 - ・ふりかえり …こどもたちと対話



遊びを「物語」としてとらえ、子どもたちのすがたから、全体の遊びをナビゲートしていきます。今日は最後にクリスマスに向けてのかざりつけが完成しました。



おそとで
こどもから

うまれたあそび

(45分)

「はっぱバッグ」をひとり一つもって、子どもたちがよく行くフィールドに落ち葉を探しにいきました。どんぐりや小枝も拾って、帰る頃には、バッグはお気に入りいっぱいです。



落ち葉探し



光と葉っぱ



葉っぱバッグ



おへやで
こどもから

うまれたあそび

(45分)

お部屋にもどって拾い集めたものと紙粘土を組み合わせている遊びをみつけていきます。園では紙粘土と初めて出会う子どもたち、自分で袋から取り出してさわることから始めます。



葉っぱ
かたどり



葉っぱ
ディスプレイ



ふりかえり



遊びでむすぶ
ワークショップ
とほいく

対話のある表現

山中詩子

ひょうごエコロコプロジェクト 推進委員
三田市有馬富士自然学習センター コミュニケーター

一期一会の「ワークショップ」という場づくりを、日常の表現の場である保育園で開催できました。そこで生まれた子どもの体験を、子どもと遊びと表現のまなざしからふりかえります。

千草こどもの園の5歳児クラスとの出会いは昨年冬に訪問したことにはさかのぼります。当日、私が訪問すると、「あ、うたこさんだ!」、「まえにいっしょにこえだであそんだね。」「たいこ今日はもってこない?」と、子どもたちが声をかけてくれ和やかなな再会からはじまりました。千草こどもの園では日常から自然の中で子どもが育ちあうことを大切にされ、子どもたちは自然はさることながら、友だちのことをよく知っていて、お互いに伝えあっています。仲良くなることにとても心が開いている印象でした。

子どもたちが慣れ親しんだフィールドで遊びをともにつくる中で、子どもが対話する姿をたえず感じることができました。そして、子どもたちは、自分の手から感じたものをおもいおもい表現していきます。素材とも対話を重ねるように出会っていくその時間はとても自由でのびやかで、言葉以上に子どもたちひとりひとりの存在が伝わってきます。

私が提案する遊びワークショップは、自然をみるまなざしやかかわり方のヒントにすぎません。そこからなにかをうみだすのは子どもたち、広げていくのも子どもたちです。



普段は子どもたちと圧倒的に一期一会の出会いが多いため、今回のように、時をかさねて、その後の子どもたちの表現に出会えることは楽しみであり、改めて、今回のような経験をさせていただけたことに感謝します。ワークショップと保育がゆるやかに結びついた時、子どもたちの遊びは豊かになり、そこから表現される創造は日常にむくむくと広がりしみこんでいくことを実感できました。日常の中で自然とこころゆくまで遊ぶことにはたくさんの表現のもとであふれています。



その後、保育園では、「葉っぱ遊び」が広がっていったとうかがいました。先生方から届いたその後の物語をご紹介します。



こどもと
しぜん
と
ほいく

日常にとけこむひと工夫

千草こどもの園 副園長：河井美幸先生

散歩に出かけ、気に入ったものを集めることはずっとしてきたこと。でも、うたこさんのお散歩バックは想像以上に魅力的。クリアケースに持ち手を付けて中にトレーシングペーパーを入れ、そこに自然物を入れる。そして太陽の光をとおして見る。自分ひとりだけでなく隣の友だちと見せ合いっこをして楽しむ。園に帰ればそのまま飾ることができる。時間の経過とともに葉が変色していくことを日々観察できる。子どもたちが完成させたものは一つとして同じものはなく、みんな違ってみんないいとお互いを認め合う機会にもなりました。

こどもの
たいけんの
ひろがり

続く葉っぱ遊び（5歳児クラス）

5歳児 20名 担当 森本菜未先生

散歩に出かけ、自然物を集めたり、集めたものを押し葉、押し花にして、サツマイモの蔓で作ったクリスマスリース、バケツ稲で育てた稲わらでしめ縄リースに飾り付けた。押し葉や押し花にすることで飾り付けた後も枯れたり変形することがなくきれいなままだった。出来上がったリースを並べて飾るとそれぞれの個性や工夫やこだわった部分がよく分かった。それぞれに家庭に持ち帰り家族で制作過程でのエピソードを話し合う機会になり園での活動への理解が深まった。



葉っぱで親子遊び（2歳児クラス）

2歳児 20名 担当 富田貴子先生 新島優希先生 清水勇多先生

親子で散歩に出かけ、それぞれに気に入った自然物をお散歩バックに入れていく。子どもから「つぶれちゃうよ。優しく。」と小さな葉っぱを大切にしようとする言葉が聞かれた。紙粘土の感触、匂いなどを十分に味わったあと集めた自然物を飾り付ける。親も子ども自分の思いのままに赤い実や枝葉を動物の顔に見立てたり、並べたりと夢中になって楽しんでた。



先生と
しぜんと
ほいく

自然への愛着を育む保育

ひょうごエコロコプロジェクト 推進委員
千草こどもの園 園長 : 松山孝博先生

四季をとおして、自然のなかに出かける子どもたち。

春夏秋冬を彩る自然物は、小さな子どもたちから大人までを魅了し、集めたものは大切なものとして残しておきたいと保育者は思います。

今回の『エコロコかふえ』で実際に自分自身が経験することで出来上がった作品に対する愛着が生まれそれを効果的に飾ることで更に満足感が得られたようです。

11月の公開保育での様子を見て、自園で取り組んだことを参加者同士写真を見せながら話す姿に保育者の熱意を感じ、海、山、田畑と自然に恵まれた淡路島での活動の広がり大いに期待をしました。

エコロコプロジェクトとして自然体験の様々なプログラムを各園で体験して頂いていますが、園での自然体験の活動が単発に終わることなく継続して行われるために地域の特色を生かした地域単位での学びや情報交換の場として今後さらなるエコロコかふえの展開を期待しています。



せんせいの
たいけんの
ひろがり



研修：「冬の自然あそびのレシピ大公開！」

日時：2024.1.20（土）
14時～16時

場所：幼保連携型認定こども園
千草こどもの園

参加人数：9名（6園）

『エコロコかふえ』でのあそびの体験は、11月の公開保育で子どもたちが実際体験したものです。

素材の手渡し方などの環境設定についての話も交えながら、子どもの体験に着目した内容としました。その後の対話では、11月の公開保育の「葉っぱ遊び」の後、参加された他園の先生たちの園でも各先生のその後の実践の報告など話が広がりました。保育での子どもと自然と表現について語り合う機会となりました。

エコロコ・かふえ について

1/20（土）は、「ひょうごエコロコプロジェクト」の『エコロコ・かふえ』淡路島版として実施しました。『エコロコ・かふえ』は、近隣の園でのしぜんたいけんがますます広がることを目的に開催される先生方の交流の場です。



【内容】

- ・どんぐり山で素材探し
- ・拾ったものと紙粘土を組み合わせた遊び
- ・自然のものを素材にした遊びのアイデア
- ・園での取組紹介
- ・参加者での対話
- ・ひょうごエコロコプロジェクトの紹介

『エコロコかふえ』の
取組みもっとくわしく！

『エコロコかふえ』での
先生方の声



うたこさんのお話のなかにも何度も「ときめく遊び」という言葉がでてきたが、実際に私自身が何度もときめきワクワクする時間だった。一つの遊びのなかで色んなことを知ること、感じることができる機会になった。

子どもたちに声をかけるだけでなく、準備物や準備段階にも工夫があると子どもたちが興味を示しワクワクする気持ちが高まる。アイデア次第で遊びの可能性が広がること、流れのある遊びがSDGsに繋がることを改めて理解した。